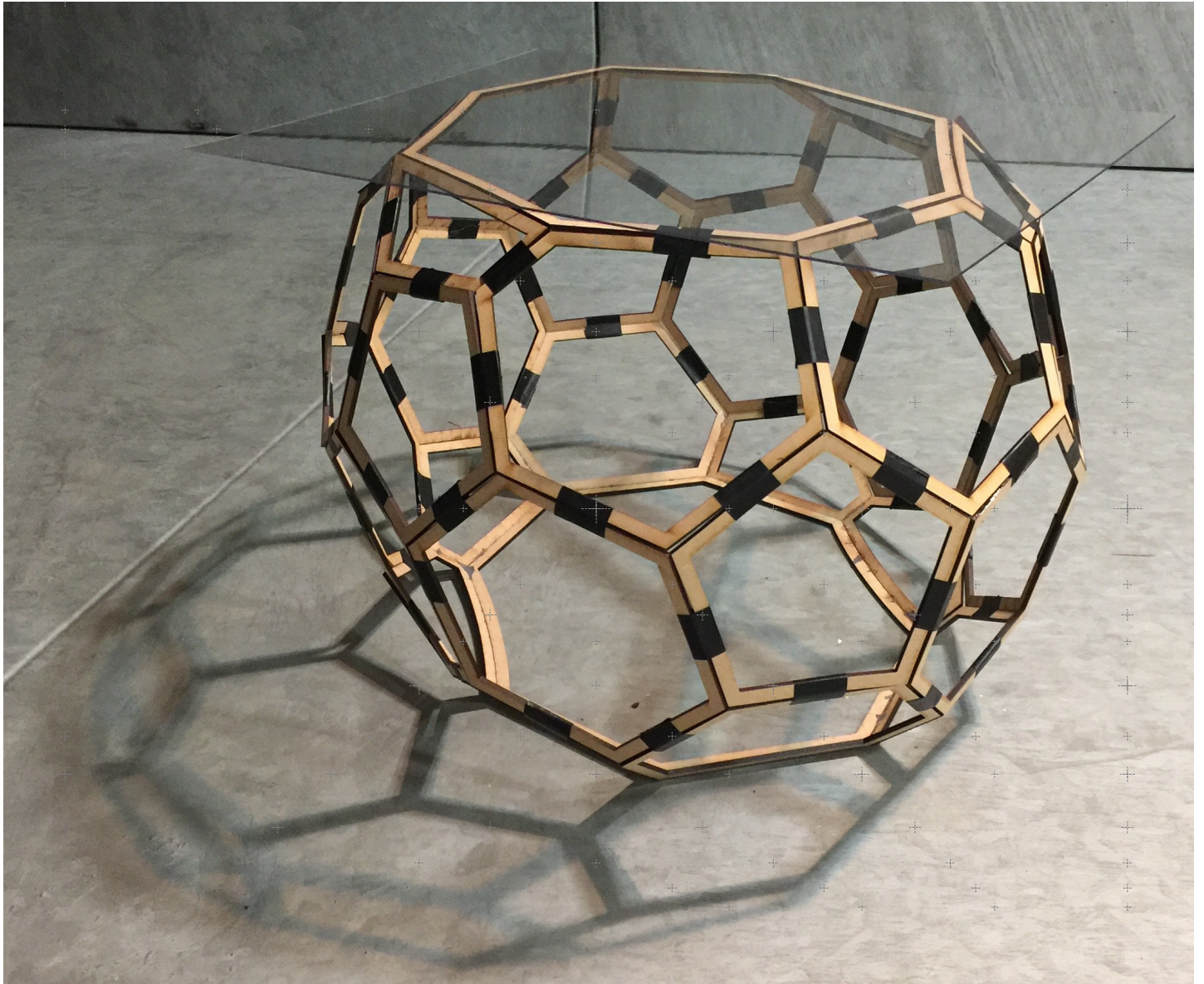
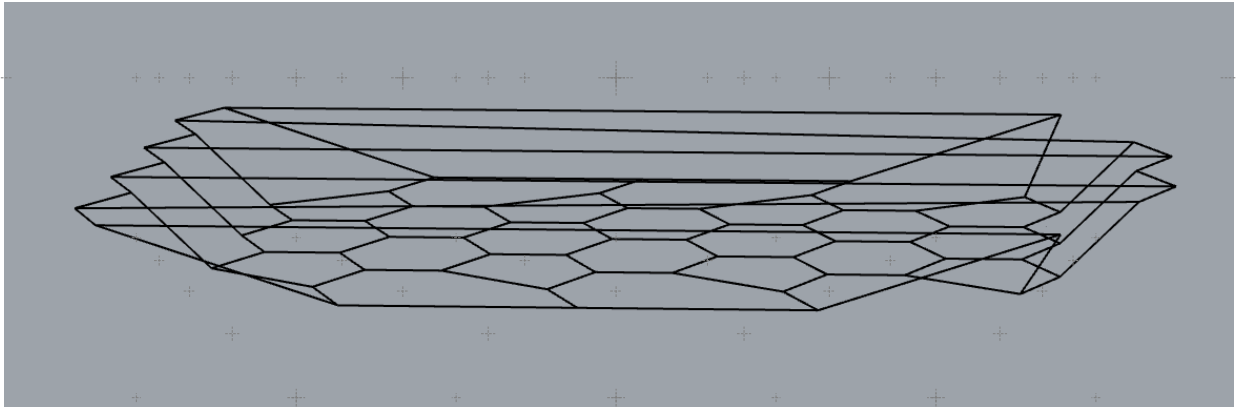


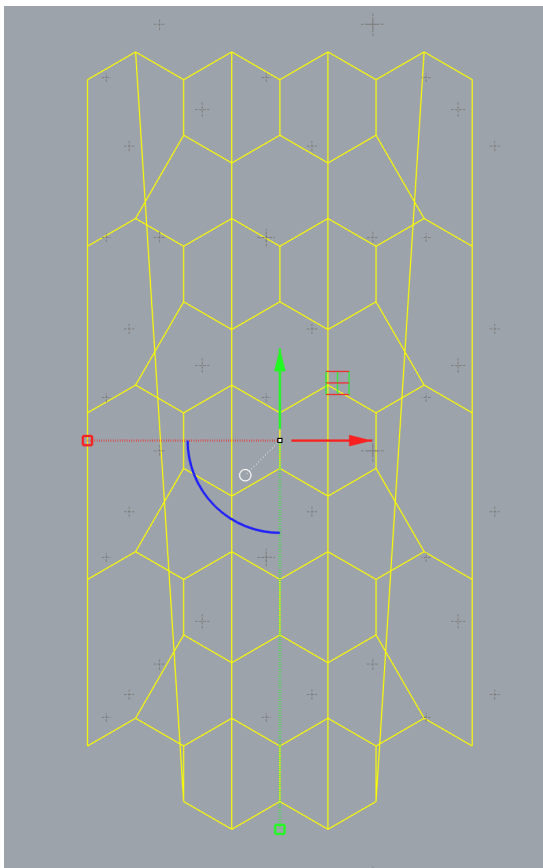


Grasshopperを開くことができず、の状況がわかりませんでした。すいません。3週間後Rhinoが使えるようになる予定なので、そこで付け加えたいと考えています。

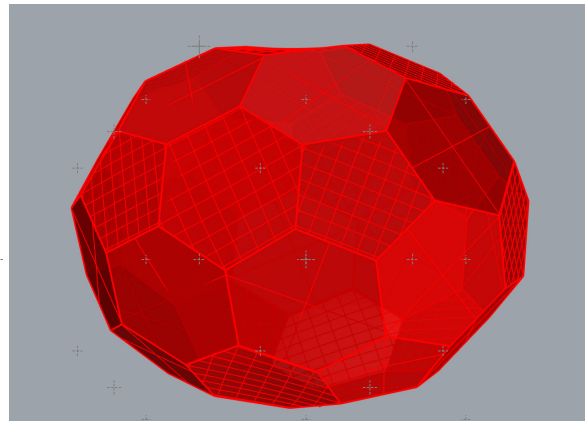
(3)



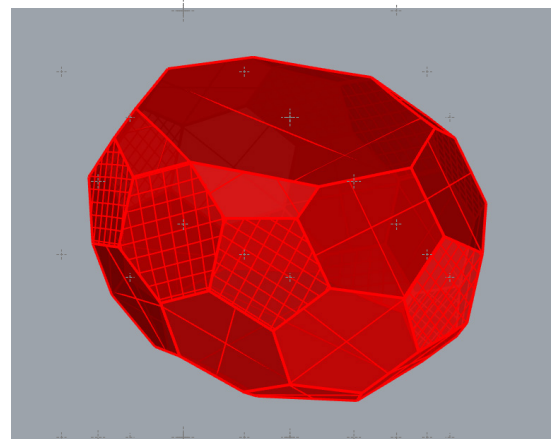
(2)



(5)



(6)



形を作るためのinputの操作

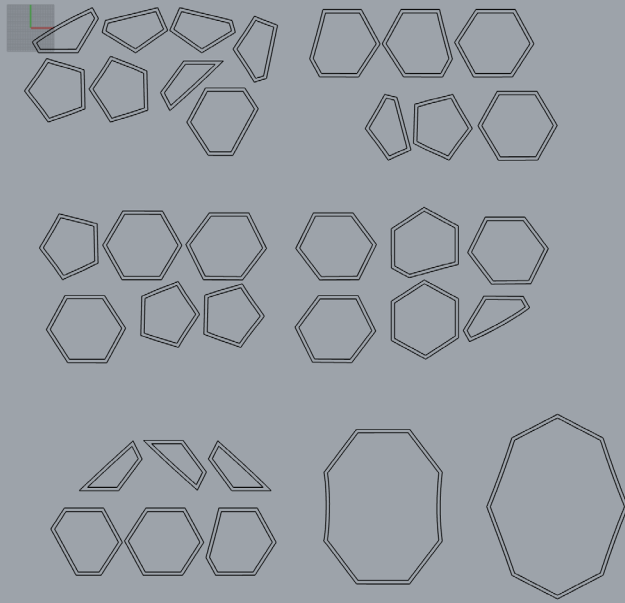
- (1)炭素数70のフラレーンの六角形と五角形の組み合わせが合っている展開図を書く。
- (2)繋がる辺を全て繋ぐ。
- (3)grasshopperで立体サーフェイスと認識させるために縁を持ち上げる。
- (4)grasshopperのカンガルーで張力のツールを使って、先ほど書いた展開図を立体＝フラレーン70にする。
- (5)Rhino上でコマンドのpatchを使い、無視できる値を調節し、フラレーン70に面をはる。
- (6)フラレーン70の上下を切って水平面を作る。

*grasshopperを開くことができず、操作を書くことができませんでした。すいません。

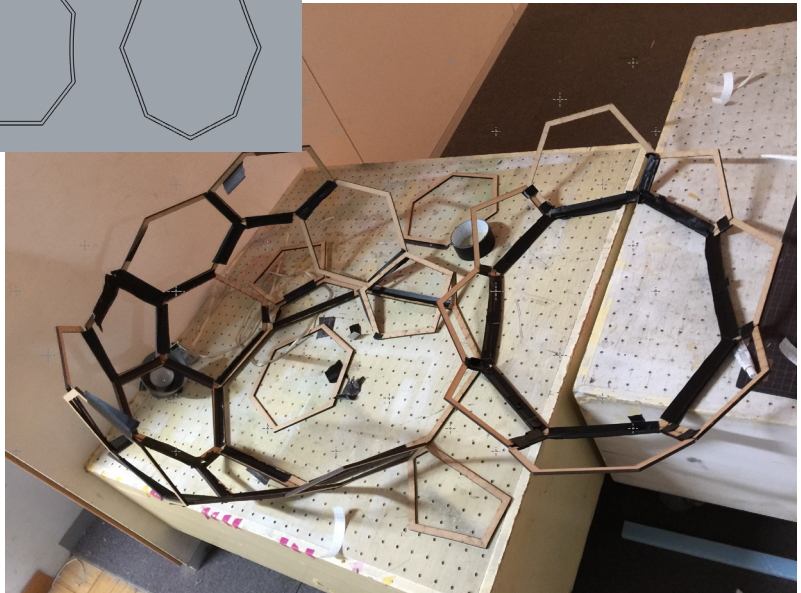
(7)



(8)



(10)



outputの操作

(7)Rhinoでフラーレン70を展開する。

(8)Rhinoで外枠から内側に厚みをつけ、枠組みを作る。

(9)(8)をillustratorに入れて、サイズを合せた後、レーザーカッター用の仕様にする。

(10)製本テープを用いて組み立てる。



接合の仕方が難しかったです。patchを使ったで、精度によって接合を考える必要があることを身をもって学ぶことができたと思います。そのことについて、製本テーブルは、緩めの精度の時に有効でMDFと素材感が合っていて良かったです。このように全部のバランスが重要な形を組み立てるときには、全体を組だいたい組上げて、バランスを取っていくといい場合もあることを知れました。カンガルーを使った組み立て方を学べて面白かったです。しかし、ジェネラティブという要素が薄くなってしまったのが反省点です。